

## 器械根の恵み 日本一のイセエビ水揚げを生む広大な岩礁群

長者小の脇を流れる夷隅川は、すぐに太平洋に出ます。この夷隅川河口の前の海には、水深10～20m程の浅瀬が沖合10km以上も広がっています。この浅瀬の岩礁群は器械根（いすみ根）と呼ばれ、イセエビやアワビ、タコ、サザエなどの魚介類の一大生息地です。

器械根が見つかったのは1885年のことで、翌年には潜水器具を使い1年で750tものアワビが水揚げされました。大原の浜は大いにアワビ景気にわいたのですが、乱獲がたたくて激減し、現在、アワビ漁は制限されています。

器械根では質のよいイセエビがたくさんとれ、水揚げ港となる大原漁港は、単独漁港として日本一のイセエビの水揚げを誇っています。また、イナダ、タイ、ヒラメ、スズキ、イワシ、アジ、イサキなどのよい漁場になっています。様々な種類の海藻があり、オオノアナメという海藻は、世界でここにしかありません。また、ここでは小さなクジラのなかまのスナメリやアカウミガメも見ることができます

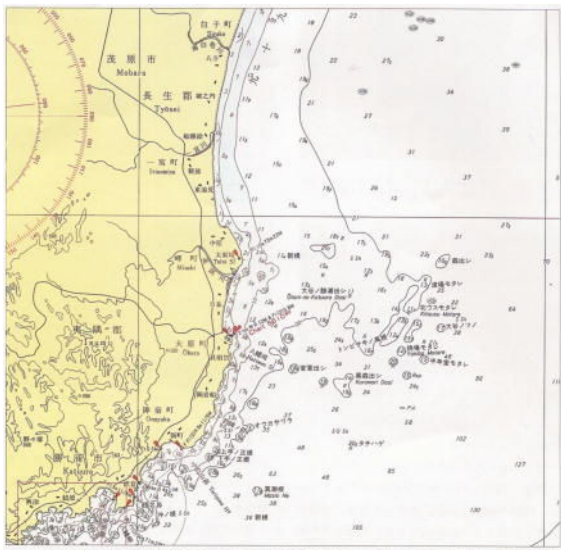


図10-06 太東崎の沖にはたくさん根とよばれる、暑干瀬時にも空中に出現することのない岩礁がある（海図・海上保安庁 1990）。  
ここには、フジノハヅタ・オオノアナメ・ハスジギスなどここでないと採集できないような稀産種が多数生育する

器械根 『千葉県自然誌』



イセエビ（大原漁港）



カズハゴンドウ 2010.9.4 太東崎



スナメリ（大藪健先生撮影）2010.8.10

参考：『千葉県自然誌本編7』千葉県史料研究財団  
『房総の潜水器漁業史』 崙書房